

国際アサリシンポジウムで研究成果を発表しました

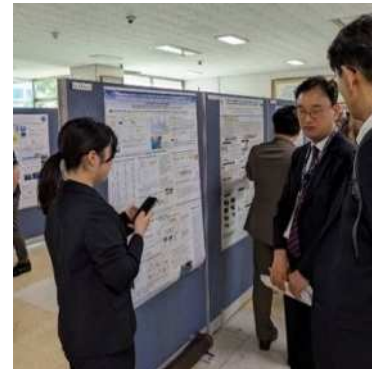
漁業生産研究所 栽培漁業グループ

アサリは日本をはじめとする東アジアに生息する二枚貝ですが、北アメリカやヨーロッパの北西部、地中海等にも広く分布しています。令和6年6月2日から4日にかけて韓国群山市で開催された“5th International Manila Clam (Asari) Symposium”（第5回国際アサリシンポジウム）に参加し、各国におけるアサリの最新の研究や現状について情報収集を行うとともに、当グループからはポスター発表を行い、愛知県のアサリ漁業や資源管理について紹介するとともに、アサリの資源変動に関する研究成果を発表しました。海外の研究者からは、本県で行われている稚貝移植等の資源管理手法や、基礎生産の低下がアサリの生態に及ぼす影響などについて質問がありました。

2日目の野外調査では、韓国西岸に位置する Hajeun 干潟を訪れました。干満差が3-9mある広大な干潟で、韓国のアサリ生産量の50%である約1万トンが毎年生産されていますが、天然発生稚貝が不足しており、漁場に稚貝を移植しているという報告もありました。

今回のシンポジウムには、日本のほかに韓国、イギリス、フランス、ポルトガル、イタリアの海外研究者が約70名参加しました。口頭発表では、フランスでは1-2千トンを生産し、漁場ごとに漁具やサイズ制限を行っていることや、イタリアでは約2万トン生産しているものの、自然加入の低下や食害生物の急増によるアサリの減少等が問題となっていることが紹介されました。世界各国のアサリ研究者による発表を通じて、様々な方向からアサリ資源の維持回復に取り組んでいることがわかりました。

ここで得られた経験を活かし、今後も幅広い視野を持って研究を進め、漁業現場へフィードバックをしていきたいと考えています。



ポスター発表風景



シンポジウム参加者

豊川河口域アサリ稚貝の移植放流はじまる

漁場環境研究部 漁場改善グループ

豊川の河口域（六条潟）では、例年大量のアサリ稚貝が発生します。漁業者はこれらの稚貝を県内のアサリ漁場へ移植放流し、1-2年間大きく成長させた後に漁獲しています。当グループでは、六条潟に発生する稚貝の状況を把握するため、月に一回の頻度で干潟の定点において砂泥を採集して、その中から米粒ほどのアサリ稚貝を選び出し、生息密度と殻長を測定しています。昨年度は6月に大雨による出水があり、稚貝の減少がみられましたが、本年度は平年よりも密度が低めではあったものの、アサリ稚貝は順調に成長していました（図1）。

この状況をふまえ、6月5日に漁業者らと共に、六条潟全域におけるアサリ稚貝の資源量調査を実施しました。その結果、平均殻長は9mmを超え（図2）、六条潟の広い範囲に稚貝が分布していることが確認できました。これを受けて、アサリ稚貝の移植放流が7月1日から始まりまし。六条潟のアサリ稚貝を有効に活用することによって、アサリ資源の回復と漁獲量の増加につながることを期待しています。

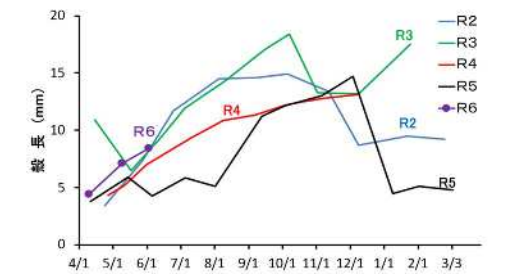


図1 六条潟におけるアサリ稚貝の成長

図2 6月5日調査時のアサリ稚貝
赤色のバーは1cm

海とお魚漁業体験教室を開催します

企画情報部 企画普及グループ

水産試験場では、水産業への関心と理解を高めるとともに、漁業の担い手を確保することを目的として、県内漁業地区等に在住の中学生を対象に下記の通り「海とお魚漁業体験教室」を開催します。この教室では、実習や講義を通して、愛知県の水産業を楽しみながら学んでいただけます。詳細は、ウェブページ（<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/suisanshiken/summer.html>）をご覧ください。

記

- 1 日時：令和6年8月6日（火）10:00～15:30
- 2 場所：水産試験場 本場（蒲郡市三谷町若宮 97）
- 3 内容：のり漉（す）き体験、青のりバラ干し体験、プランクトン観察、腰マンガ体験、魚の耳石とり体験など
- 4 対象及び定員：県内在住の中学生 最大定員 20名
- 5 申込方法：上記ウェブページより申込用紙をダウンロードし、必要事項を記載のうえ、FAXまたはメールで水産試験場までお申込み下さい。（期限：7月26日）
※申込多数の場合は、高学年及び先着優先とさせていただきます。
- 6 申込先：水産試験場企画普及グループ
（FAX: 0533-67-2664、メール: suisanshiken@pref.aichi.lg.jp）



令和5年度開催の様子

